平成30年度　奈良県立奈良高等学校　学校評価総括表

学　校　運　営　計　画			総合評価
教　育　目　標	本校の教育の目標は、日本国憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本理念に基づき、人間尊重を基盤として、一人一人の人間を大切にし、その人がもっている能力、適性を最大限に伸ばし、未来の社会に期待される人間を育成することにある。そのために、豊かな人間性をもち、絶えず知性を磨き、新しい文化の創造に努め、正しい価値観と倫理観をもって自主的な判断と行動のできる人間の育成を図る。		B
教　育　方　針	天平文化を象徴する校章『宝相華』を体し、新しい文化の創造に励み、民主的な社会の形成に努めるたくましい人間の育成を期し、本校教育は次の方針に基づいて推進する。 1　志操と思想を研き、創造的な知性と技能を育て、豊かな個性の伸張を図る。 2　真実の自由と責任を自覚するとともに、敬愛と信頼に満ちた人間関係を醸成する。 3　積極的に文化・体育活動に参加し、明るく豊かで活力のある生活態度を養う。 4　人間尊重の精神を基盤として、人間としての在り方、生き方を自覚し、自らの行動を律する主体性を育てる。		
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
生徒の学習意欲の向上、学習習慣の定着に成果をあげ、進路実績も一定の成果をあげた。 しかし、学習に主体的に取り組む姿勢には、まだ課題が残る。将来のキャリアを視野に入れた指導が、継続的に必要である。 また、授業改善のために、より質の高い授業、生徒が主体的に学べる授業を実践するための研究が大切である。 部活動や各種コンクールに真摯に取り組み、成果をあげた。今後も、学習との両立を図るため、バランスのとれた生活時間の配分が必要である。 校内での挨拶は定着しつつある。その一方で、遅刻の総数が、昨年よりも増加した。不注意の遅刻の減少及び通学マナーの向上を図る必要がある。 部活動中の熱中症等への予防に向けた取組を継続していく必要がある。	○　生徒が主体的に物事を考え、判断し、行動しようとする姿勢を養う。 ○　生徒の確かな学力と、社会の一員としての豊かな知性・人間性を育む。 ○　より質の高い授業を実践するため、授業改善に取り組む。 ○　ＳＳＨの第４期指定において設定した新たな研究開発課題に向けた取組を推進する。 ○　生命を大切にし、常に安全確保に努めるとともに、健康を保持増進する能力や態度を養う。	◇　本校独自の単位制を充実させるとともに、個々の授業改善に取り組む。 ◇　計画的、組織的な進路指導を展開するとともに、将来の大学入試改革に備えて、さらに検討を進める。 ◇　主体的な学習を促すためのガイダンス機能を更に充実させる。 ◇　第４期２年目のＳＳＨ事業を企画・運営し、関連機関と連携しながら事業を推進するとともに、探究活動や授業改善に取り組む。 ◇　社会のルールやマナー等規範意識の醸成に努める。 ◇　部活動や各種コンクールへの参加を支援する。 ◇　読書の啓発に努めるとともに、文化的な行事の充実を図る。 ◇　学校安全教育、防災教育に積極的に取り組む。 ◇　ボランティア活動を推進し、地域で活動する機会を設ける。 ◇　健康面、精神面での相談体制を充実させる。 ◇　本校の教育活動についての情報を迅速かつ適切に発信する。 ◇　熱中症予防に向けた具体的計画を作成し、その取組を展開する。 ◇　グローバルリーダーの育成をめざし、国際交流・留学を推進する。 ◇　ＩＣＴ機器の整備及びＩＣＴ機器を活用した授業づくりを推進する。	

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
教務部	教務課	２年目のＳＳＨ研究開発のなかで、本校の特色を生かした教育課程や学校設定科目が効果的に実践していけるような科目選択・講座編成を構築する。	研究開発部と連携をとりながら、教育課程委員会及びＳＳＨ推進委員会、さらには「理数探究プロジェクトチーム」等を通じて、各教科の意見を出し合い、本校の教育課程やＳＳＨ指定研究の基本方針・内容についての共通理解を図った上で、それぞれの学校設定科目の運用・実践方法を確立する。	B	B	４期目のＳＳＨ指定研究は順調に進んでおり、ＥＳ科目の開始等により生徒の探究活動も推進されている。さらに授業改善や評価方法については様々な観点からアプローチしていく必要がある。また新学習指導要領を見据えた教育課程の編成を更に進めていく必要がある。	授業改善については、教科内での研修とともに、教科の枠を越えた授業交流や授業観察をこれまで以上に活性化する必要がある。また、来年度から実施される「理数探究」や探究科目等での教科を横断した教材や課題等の開発が他教科の授業改善の参考にもなると思われる。さらに評価方法についても教科・科目で作成したルーブリックの検証が重要である。	現在進行しつつある新しい大学入試や新学習指導要領を見据えた教育課程の編成をさらに進めてもらいたい。そのためには、探究科目等の取組や内容を意識しながら、教科の枠を越えた授業交流等をさらに活性化させる必要がある。 ＩＣＴ機器を積極的に取り入れ、生徒の主体的な学びに向けた更なる実践の取組を実施する。 評価方法については教科・科目で作成したルーブリックの検証を進めてもらいたい。
		生徒の主体的な学びや探究活動がより一層進展していくための指導方法の工夫や授業改善を目指すとともに、観点別評価の実践を段階的にしていく。	教科の枠を越えた授業交流を実施し、互いの授業を観察し研究する。また、各教科で研究課題を設定し、それに基づいた公開授業を行い、教員それぞれの授業力の向上と授業改善を図る。さらに新テストの導入準備も絡めて、生徒の探究活動・課題解決学習の推進を様々な観点からアプローチしていく。そして、評価についての具体的な方法を実践する。	B				

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
キャリア・マネジメント部	キャリア・リサーチ課	大学入試制度改革に対応するための具体的方策を設計・検討する。	英語外部検定受験に向け、受験時期や受験する試験の選定、受験に対応する学習活動の構築等について、英語科と連携して具体的な検討を開始する。 各教科と連携し、入試問題・出題傾向の分析と対策の検討を行う。	B	B	B	従来の取り組みを検証・改善しながら円滑に実施し、生徒の進路への意識を早期に高めることを目指した２大学への探訪を企画・実施できたことは大きな成果であった。また、英語外部検定試験への対応に関して、英語科と連携した検討体制の筋道もつけることができた。年間の進路関連行事を俯瞰し、特に各担任の計画的な指導を可能にする進路シラバスもほぼ作成できている。大学入試・評価方法・調査書など大きな変化にさらに確実に対応すべく、情報を分析し、全教員への細やかな提供に努めたい。	再来年度から実施される大学入学共通テストに関しては、未だ未確定な部分も多く、本校として取るべき対応も明確に決定しづらい点もあり、教員・生徒が不安を抱えることにもなり得ると懸念する。来年度は、施設整備の状況を見ながら、できるだけ早い段階で、最新情報に基づいた、今後起こるべく変化にいかに対応すべきかに関して、職員研修を実施したい。	京大および東大探訪の企画、実施により生徒の進路に対する意識向上の効果が見られた。今後も生徒が将来を見据えて進路選択ができるようキャリア教育を進めてもらいたい。 入試改革のポイントの１つである英語外部試験の導入を見据えた取組を効果的に行っている。 大学入学共通テスト等の入試改革に対しては、多くの情報を収集し、積極的に生徒、保護者へ情報発信されることを期待する。また職員への研修の実施などにもさらに取り組んでもらいたい。
		様々な調査や外部模擬試験結果の分析から、本校生徒の課題を探り、解決策の検討と時機を得た情報提供に努める。	模擬試験結果の分析を行い、キャリア・サポート課、学年と連携し研修を行う。 様々な結果分析から得た情報と課題を、学年・教科に提供し、連携して課題克服策を探る。	A					
	キャリア・サポート課	生徒の進路に対する意識を高め、進路実現をサポートするための体制と方策を一層整備する。	大学探訪を実施し、生徒の進路に対する意識を早期に高め、進路実現に向けた意欲を向上させる。 進路実現サポートのための個々の取組を検証、課題を修正し、よりよい取組を実施する。	A	A				
		教員個々が、生徒への充実した進路指導を実践できるよう方策を探る。	全ての教員の進路指導の参考となるよう、進路シラバスを完成させる。 進路指導に関する外部研修について紹介し、参加を促す。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
学校生活部	生徒指導課	基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高める。	不注意による遅刻を防止するため、指導の充実に努め、年間の総遅刻数を減少させる。 学校生活委員による「朝の挨拶運動」などを通して、明るく積極的な学校の雰囲気づくりを進める。	B	B	B	学級数が１つ減少したが、全体の遅刻数が１割以上減少した。（２学期末まで） 校内で、生徒の挨拶の様子を見ると元気が少し足りないような気がする。挨拶は、校内の明るくけじめある雰囲気を作るには絶対に必要である。 委員会改革を目標として、各種委員会の活動の活性化につながった。スマホリデーやナジカ文庫などの取組を継続、発展させた。課題は、地域と連携したボランティア活動が実践できなかったことである。 人権に関する外部の研修会への参加人数が他校に比べて少なかった ＨＲでは各担任の工夫が感じられた。外部の研修会への参加人数は昨年度より増加し、保護者の外部研修会への参加もあったが、より積極的な参加を望む。	今年度の減少には、学年の取組が大きく影響しているように思える。各学年の意識の高さが学校全体に広がっている。 挨拶は、相手を待つことなしに、こちらから声をかけ、当たり前に交わせるようにしたい。 スマホリデーをきっかけとして、生徒側から規範意識を高める活動を立ち上げていけるようにバックアップする。生徒会担当者会議などに積極的に参加して他校と情報交換をして、地域と連携したボランティア活動を模索する。 ＨＲ・研修会・奨学金等に関する情報提供が、２箇所に分かれる職員に確実にできるように課内での連携を密にする。	今年度成果が見られたように遅刻防止に向けた自覚を促すような指導をさらに継続してもらいたい。スマホの使い方については、「歩きスマホ」等の注意喚起を行うとともに、校内での使い方についても学校全体で共通理解のもと、生徒の規範意識を高める取組となるような体制作りを行うことを期待する。 いじめについては引き続き見守り指導に注力を注いでいただきたい。 次年度は今までにない形での校外実施となる学校行事が多い。総務委員会がリーダーシップをとって新しいものを作り上げてもらいたい。 地域との連携については、周辺地域から更なる評価を受けるような積極的な取組の実施とともに 2020 年度設置される学校運営協議会に向けての準備も進めてもらいたい。 人権学習は、２校地に分かれて実施することになるが、今まで本校や各担任が培ったノウハウを活かすことができるような情報共有や連携がとれるように工夫をしてもらいたい。
		生徒の問題行動に対する予防・対応・指導を適切に行う。	１年生を対象として、「交通安全教室」「スマホ・ケータイ安全教室」及び「薬物乱用防止教室」等を開催し、現在及び将来にわたって安全な社会生活を送るための知識を学ばせる。	B					
	生徒会指導課	自主創造の精神に基づき、生徒一人一人が学校活動の主役となり、生き生きとした生活が送れるようにする。	生徒会（総務委員会）と各種委員会との連携を密にし、各行事における役割を明確にするとともに、活動の活性化を図る。 学校生活における規範意識を高めるための活動を模索し、実行に移す。 活発な部活動を展開し、健康で心豊かな生徒の育成を図る。	B	B				
		地域や他校と連携したボランティア活動の充実を図る。	昨年度に続き、近隣の学校や周辺地域と連携したボランティア活動を計画し、発展させる。	B					
	人権教育課	生徒の実態の把握に努めるとともに、グループワークなどを通じて生徒の主体的な活動を促す。	生徒が作成した人権啓発標語や人権作文を人権ＨＲにおいて効果的に活用し、アクティブラーニングの手法を取り入れる。	A	B				
		教職員・保護者に研修会、学習会等への参加を呼びかける。	人権教育に関する研修会や学習会（校内・校外）に多くの教職員・保護者が参加できるように、情報の収集・伝達に努める。	B					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
文化 広報部	総務 情報課	育友会と同窓会の活動を支援し、より充実した活動が行われるよう適確に計画を立て遂行する。	学校内外の各部署との連携を緊密にとって活動の円滑化に努め、講演会や見学会をはじめ学校通信やSEITAN、同窓会報「宝相華」等を用いて広報の充実にも努める。	A	A	A	育友会長が近畿大会と全国大会で日頃の活動を発表した。また、同窓会でも 90 周年記念行事を無事行うことができた。 昨年以上にホームページに多くの行事の報告を載せることができた。 当初の計画どおり実施し、生徒の知的好奇心につなげることができた。図書館利用者数を増やすことが課題である。	今年は特別外部への発表や記念行事が多かったが、日常的な細かな行事を大切にして遺漏のないようにしていきたい。 ホームページの充実には成果があったが、授業の情報化はまだ十分ではない。 校内にポスターを貼るなどして、もっと多くの生徒が気軽に図書館を訪れる雰囲気作りに努める。	次年度は城内学舎への一時移転、仮設校舎の設置など、例年以上に学校運営に関して、育友会･同窓会と学校との連携が必要となる。より連携を密にしてもらいたい。 新しいネットワーク等が構築される中で、教員が円滑に情報機器を使用できるように取り組んでもらいたい。 次年度は1、2年生の学校図書館利用が9月以降となる。特に1年生が図書館をうまく活用できるような取組が必要になる。その中で、本校の特色である生徒の自主性を活かしたビブリオバトルやビブリオサロン、読書会などの取組が、さらに充実していくことを期待したい。
		学校 HP を充実させ、開かれた学校作りに貢献する。	中学生や地域社会に本校のことをよく知ってもらうため、学校行事や部活動の取組について最新の情報をホームページで公開していけるよう他の部署とも連携を深める	A					
	文化 図書課	知的好奇心を喚起するような文化講座を計画し実施する。	外部講師を招くことも視野に入れ、他分野横断、学際的な講座を２回以上実施する。	A	A				
		生徒たちが本と読書について自由に語り合えるような「ビブリオサロン」を実施する。	月に１回ほど有志が相集い、本とその内容について自由に討議する場を設ける。文化講座・探究系授業・「アスペン古典セミナー」・「ゲーテの会」などとも連関させながら、自由な対話の場を作り上げる。	A					

評価項目		具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
保健 安全部	保健 体育課	生徒が健康診断や身体測定、体力テスト等の結果を踏まえて、自主的に健康を保持増進できるような能力や態度を育成する。 引き続き熱中症０を達成する。	健康診断の事後指導を充実させ、疾病や発育･発達に関する課題の早期発見や対応を行う。特に、経過観察が必要な生徒の体重測定や個別指導を定期的に行うとともに教育相談委員会とも連携し、個人カードを活用しながら心身に配慮を要する生徒をより注意深く見守る。また、「保健だより」や掲示物等の内容を工夫する。 熱中症予防計画を策定し、学校全体で確実に取組を進めていく。	A	B	B	健康診断の結果を踏まえた事後指導や経過観察が必要な生徒への支援・指導は概ね行えた。 熱中症０を達成できた。 生徒が自分の体力や運動能力、適性を把握した上で運動を選択して行えるよう授業を工夫し、個別指導もしている。 ＳＣの有効的な活用ができるようになった。ＳＣとの連携をさらに進めるとともに、学年間での情報共有を大切にしたい。 三者懇談等、学校行事の際に多くのクラブ員生徒が熱心に清掃活動に取り組み成果を上げることができた。 トイレ清掃を男女別に監督配当することを優先させ、指導の充実につながった。	情報交換を密にし、より細かく生徒の心身に関する情報を把握しながら課題の超早期発見や個別指導・支援に努める。 各生徒の運動能力や運動経験、運動に対する価値観等を把握・分析しながら適切な指導・支援が行えるシステムを充実させる。 教育相談委員会には、ＳＣに出席していただき、効果的な持ち方を考えていく。 来年度、学年により校舎がわかれる時期にクラブ員による清掃活動が可能か検討する必要がある。 来年度の清掃分担区域は仮設校舎に入る前と後の２パターンを一から考え直す事になるので早めに取りかかる必要がある。	学校での健診結果を踏まえた事後指導や経過観察が必要な生徒への支援・指導を引き続きお願いしたい。 熱中症予防については、今後もゼロを継続できる細やかな指導体制を期待する。 ２校地に分かれる時期もあり、２名のＳＣを含めて生徒をサポートする体制をしっかりと築いていく必要がある。 教育相談委員会についても生徒の状況の多様化、深刻化がさらに進行している中で、その必要性はさら高まっている。また生徒への支援については担当課だけでなく全職員の情報の共有化やカウンセリングマインドのスキルアップをはかるとともに、さらに生徒の声を拾い上げていく細やかな対応を期待する。 城内校地や仮校舎が設置された後の奈良校地での防災体制、避難体制を専門家等の助言もとり入れながら構築してもらいたい。また新しい清掃分担区域の設定については、様々な制約がある中、より充実した環境美化が達成できるような工夫をお願いしたい。
		全体及び個々の生徒について体力的な課題を明確にし、その克服に向けて自主的に体力トレーニングを行えるよう指導する。	体育の授業を中心に保健や体育理論の内容とも関連付けながら、生徒が自主的に体力向上を図れるよう取組を進める。特に、運動が苦手で嫌いな生徒に対する指導を工夫する。	B					
	教育 相談課	生徒へのサポートを充実させる。	支援の必要な生徒や不登校傾向の生徒に対する支援が適切に、またできるだけ早く、予防的に行えるようにする。担任、学年主任、各学年の教育相談係と教育相談課が協力、連携する。	B	B				
		教員のカウンセリングマインドのスキルアップを図る。	教育相談アドバイザーやスクールカウンセラーによる事例検討会や職員研修会を活用して、教員の教育相談活動力をあげる。	A					
	環境 整備課	生徒達が自主的に校舎内外の環境美化に取り組めるような働きかけを試みる。	年度当初のキャプテン会議で各クラブの部長に年間行事計画を配布し協力できそうな日程を考えてもらえるよう呼びかける。	A	B				
		校舎内外の生徒用トイレの清掃活動を充実させる。	トイレ清掃の指導がしやすいような清掃分担を工夫すると共に、悪臭の原因となる尿石の汚れを定期的に点検する。	B					

<table>
<tr><th colspan="2">評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策・評価指標</th><th colspan="3">自己評価結果</th><th>成果と課題</th><th>改善方策等</th><th>学校関係者評価及び改善方策</th></tr>
<tr><td rowspan="6">研究
開発部</td><td rowspan="3">ＳＳＨ
事業
推進課</td><td rowspan="2">第４期ＳＳＨ事業の研究開発課題として、３年間を通して主体的に探究・創造する力を系統的に育む教育課程を開発し実践する。また、将来のグローバルリーダーに相応しい国際性を育成する。</td><td>主体的な探究活動において、多角的・複合的な視点で事象をとらえ、徹底的に課題と向き合い考え抜くことにより、創造する力を育成する。ＳＳＰ基礎科目の見直しと、教科・科目の枠にとらわれない新たな学校設定科目（ＳＳＰ探究、総合探究）を実施し、その活動の評価方法についても検討を進める。さらに、次年度の学校設定科目（理数探究、Explore Subjects）の研究開発に取り組む。</td><td>B</td><td rowspan="3">B</td><td rowspan="6">B</td><td rowspan="6">ＳＳＨ事業の評価法は改善を行ったが、課題研究の評価法の確立が急がれる。事業の目的をより生徒に周知し、その成果を見極める必要がある。プレゼン能力・英語力の向上が見られた。生徒実行委員会の活動はまだ十分ではないが、理数科教員指導方法研究会は 2 回実施できた。
国際交流推進については、中国及び台湾から１、２学期に訪問団を受け入れ、交流をすることができた。イギリス短期語学研修では、事前事後研修を含め円滑に実施できた。
ＩＣＴ活用促進については、職員に活用喚起を図ったものの、校内研修にまで至らなかった。</td><td rowspan="6">来年度実施する理数探究等については更なる検討が必要である。課題研究の評価方法について試行し、本校独自の案をつくる。生徒実行委員会の主体的な活動を涵養する。
海外語学研修については、グローバル人材育成の観点から、更にプログラムを精査する。また、ＩＣＴ活用促進については、校内研修実施も含め、更なる活用喚起を図る。</td><td rowspan="6">次年度はSSH事業の第4期3年目となり、３年間を通して主体的に探究・創造する力を系統的に育む教育課程が完成する年となる。初めて開講される探究科目や「理数探究」も含めて、その内容の検証、改善に向けての検討に取りかかってもらいたい。
上級生から下級生の連携やテーマ間の連携により、生徒の主体的な探究活動をより深めることができるのではないか。その研究発表をオープンスクール等の利用により学校外にもさらに発信していくことも有用であろう。また今後は、高大接続や評価基準のさらなる検討等に取り組んでもらいたい。
連携校生徒を含めた「生徒実行委員会」の活動については今年度の取組を踏まえ、さらに充実したものとなるように取り組んでもらいたい。
海外語学研修については、多くの生徒がグローバルリーダーを目指せるように国際交流の取組をさらに充実した内容を考えていただいており、その成果に期待したい。</td></tr>
<tr><td>国際社会の中で活躍するために必要な資質･能力を育成する教育プログラムの研究開発として、科学英語講座やシンガポール海外研修の内容とその関連指導の充実を図る。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>重点枠事業として、県全体の理数系探究活動の活性化を図るとともに、地域や学校に貢献し、活躍できる人材を育成する。</td><td>連携校のネットワークをより充実させ、各事業をより効果的なものにしていく。さらに、成果の普及と地域への貢献を目指した地域人材育成のため、連携校生徒を含めた「生徒実行委員会」の活動と、「理数科教員指導方法研究会」を充実させる。</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研究
企画課</td><td>情報活用能力を高め、情報社会の進展に対応した教育を推進する。</td><td>ＩＣＴを活用した授業の促進を喚起するため、校内研修を実施し、授業改善を図る。</td><td>B</td><td rowspan="3">A</td></tr>
<tr><td rowspan="2">広い視野に立ち、異なる文化、価値観を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と積極性及び協調性を有するグローバル人材を育成する。</td><td>海外交流団体を招聘し、本校生徒との交流を図る。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>イギリスでの短期語学研修プログラムを企画し、長期休業中に実施する。</td><td>A</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>具体的目標</th><th>具体的方策・評価指標</th><th colspan="3">自己評価結果</th><th>成果と課題</th><th>改善方策等</th><th>学校関係者評価及び改善方策</th></tr>
<tr><td rowspan="5">第１学年</td><td rowspan="2">けじめのある態度を確立させる。</td><td>不適切な理由の遅刻は注意をして諭す。</td><td>A</td><td rowspan="2">B</td><td rowspan="5">B</td><td rowspan="5">欠席・遅刻が少なく、様々な場面においてけじめのある行動ができたと感じられるが、スマートフォンの利用については課題が残る。
早い時期から将来の目標を持つように指導し、科目選択もスムーズにできた。
本校の耐震関係の要望が保護者から担任に寄せられた。</td><td rowspan="5">スマートフォンの管理、使用方法を含め、自覚と節度を指導し続ける。
容易に到達できる目標ではなく、努力して到達できる高い目標を設定するように指導する。</td><td rowspan="5">スマートフォンの適切な管理、使用、遅刻や欠席をなくすこと等、基本的な生活習慣の確立に向けての取組をお願いしたい。またＳＣと連携した生徒への日頃からのケアをお願いしたい。
進路指導に関してはキャリア・マネジメント部との連携も密にしながら、早期の生徒の高い目標設定に向けて取り組んでもらいたい。</td></tr>
<tr><td>状況を自主的に考え、行動できるように指導する。</td><td>B</td></tr>
<tr><td rowspan="2">将来の目標を持てるようにする。</td><td>定期考査の復習など、基礎・基本的な学力を定着するように指導する。</td><td>B</td><td rowspan="2">B</td></tr>
<tr><td>様々な行事・研究・研修等に積極的に参加するように指導する。</td><td>A</td></tr>
<tr><td>生徒の情報を共有し、意思疎通を円滑にする。</td><td>担任が知り得た情報などを学年会議だけでなく、日常的に報告・相談・連絡をする。</td><td>B</td><td>B</td></tr>
</table>

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果			成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第２学年	自分の将来に対する目標をより具体的に設定させ、授業等を通して進路実現に向けた確かな学力を身につけさせる。	予習・復習の習慣をつけさせ、授業を大切にする態度を身につけさせる。定期考査や模擬試験の見直しを通して自らの学習方法を点検させ、学力の定着を図らせる。	B	B	B	学校行事や部活動の中核として、主体的・積極的な活動をすることができた。学習面については、高い目標を持ち、努力している生徒が増えている一方で、基礎力が不足している生徒も多く、中間層を伸ばしていくことが課題として残る。 生活面では遅刻の多い生徒の指導が課題である。学年団としては教員間や保護者と連携しながら情報の共有に努め、担任を中心にきめ細やかな対応ができた。	学習面については、整理講座やクロワッサンス、模試等を通じてさらなる意識の高揚を図るとともに、基礎力の充実についても内容を工夫し、必要に応じて補充講習を行っていく。 生活面については、遅効が常習化している生徒には個別に粘り強く指導を続ける。不安を抱える生徒が増える中、教員間、保護者、カウンセラーとのコミュニケーションを図り、生徒の様子に注意を払うとともに、適切な指導ができるよう心がける。	最終学年に向けて、学習に対するより高い課題意識がもてるよう励ましてもらいたい。 生活面については、スマートフォンの適切な管理、使用、遅刻や欠席をなくすこと等、基本的な生活習慣の確立に向けての指導の継続をお願いしたい。 様々な面で悩みを抱える生徒に対して、教員間の情報の共有を図りながら担任を中心とし、ＳＣ等と連携した支援体制を期待する。
		進路指導において、教員が研修の機会をもち、知識や情報を得た上でホームルームだけでなく学校生活の様々な場面で生徒に適切なアドバイスを与える。	A					
	中堅学年として活動することで、充実した学校生活を送らせる。	基本的生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。	B	B				
		学校行事、生徒会活動、部活動において、中心となって活動できる意欲や責任感を身につけさせる。	A					
	生徒の悩みや問題行動を早期に察知し、保護者との連携を図りながら、解消・改善に向けて努力する。	日々の活動を通じて生徒とのコミュニケーションを図り、生徒の様子の変化に気づいた場合は、早い段階で保護者と連絡を取り合いながら、適切な指導を行うように努める。懇談等の機会を活用し、日頃の生徒の様子について保護者と情報を共有する。	A	A				
	学年全体として意思疎通を図り、まとまりのある集団を形成する。	日頃からお互いにコミュニケーションを図り、情報を共有する。また、教科、分掌など、学校全体の組織とも連携し、円滑な学年運営ができるようにする。	A	A				

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策
第３学年	最終学年として充実した高校生活を送らせる。	基本的生活習慣を確立させ、理由のない遅刻・欠席をなくす。学校行事にも積極的に取り組ませる。部活動についても、悔いの残らないよう最後までやり遂げさせる。	B	B	受験が近づくにつれて、心身の不調を訴える生徒が多くなり、　遅刻が減らなかった。欠席がちな生徒も増えたが保護者との連携を適切にとることができた。しかしながら、大多数の生徒が学校生活を積極的に送り、志望校に向けてチャレンジできている。	受験が生徒の心身に及ぼすダメージは年々大きくなっている。生徒への指導のあり方を見直し、ＳＣやＳＳＷに助言を求め、活用することが必要。 また、志望校に向けて積極的にチャレンジさせるためには、３年生になるまでの取組と、進路相談等の学年団・キャリア部一体となってのサポートが不可欠である。	３年間の学習や様々な活動、努力の成果が、達成されるように最後まで丁寧な見守りを続けていただけることを期待する。また進路に関して希望通りの結果が出なかった生徒へのサポートもお願いしたい。
	進路実現に向けて、主体的に取り組ませる。	受験に向けての意識をしっかりと持たせる。予習・復習を通して基礎・基本を徹底させ、応用力の礎を築かせる。他方、模試を十分に活用させる。	A				
	保護者との連携を図り、信頼関係を構築する。	日頃の生徒の様子についての情報を保護者と共有する。変化に気づいた場合は、早い段階で保護者と連絡を取り合いながら、適切に対処する。	A				